

日本語教育部

■2020 年度

日本語教育部では、1年に春学期と秋学期の2回日本語コースを提供し、本学に在籍する留学生や各部局の留学プログラムに対応している。このほか、日本語教育関連プロジェクトや各種留学プログラムの企画・運営も行っている。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼学内行事「第10回 YNU 日本語スピーチ大会」開催

2020年12月18日~21日、第10回 YNU 日本語スピーチ大会を開催した。今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、国際教育センターホームページにスピーチ大会特設ページを設け、スピーチの動画を公開する形で行った。

本学で学ぶ留学生10名が「私にとっての2020」というテーマでそれぞれの思いを日本語で表現した。特設ページでは YouTube を使ってスピーチ動画が視聴できるようにし、登壇した留学生に応援メッセージを残せるよう設定をした。

審査の結果、最優秀賞は韓国からの留学生で、教育学研究科教員研修留学生のジョン・アンナさんが受賞した。なお、今回のスピーチ大会は国際交流の機会を促進するという目的のもと「国際理解：国際交流における日本語の役割」クラスの受講者に原稿のチェックやスピーチの練習の手伝いをお願いした。スピーチ大会当日の様子は本大会後援でもある読売新聞にて(12/23)紹介された。

▼日本語サポーターの日本語クラス参加

2013年度より日本人学生による留学生支援や留学生との交流の促進を目的に日本語サポーターバンク制度を取り入れている。国際教育センターホームページ上で日本語サポーター募集クラスを公開し、日本人学生の日本語クラスへの参加の機会を提供している。2020年は様々な学部にも所属する学生計45名が新規登録をし、主に初中級レベルのクラスに参加した。2020年度は全ての日本語クラスが遠隔で行われたため、サポーターは主に Zoom を使用して日本語クラスに参加をした。

<http://www.isc.ynu.ac.jp/support/bank/>

2. 日本語教育コース

横浜国立大学の日本語の授業は、受講生の身分や単位修得の必要性によって以下の3つの科目に分けられる。詳細は、年2回発行される『日本語プログラムパンフレット』

(<http://www.isc.ynu.ac.jp/study/pamphlet/>)に記載されている。

▼全学教育「日本語・日本事情」

全学教育科目「日本語中級」8コマ、「日本語上級」10コマ、「日本語演習」3コマ、「日本事情」2コマ開講し、年間延べ約119人が受講した。

▼国際交流科目日本語

国際交流科目日本語は、単位修得を目的とした科目で、2020年度は、短期留学国際プログラム（JOYプログラム）生、YCCS生、横浜国立大学日本語・日本文化プログラム生、日本語・日本文化研修留学生在が受講した。

▼全学講習日本語科目

「全学講習日本語コース」は、単位修得を目的としない科目で、主に大学院生と研究生が受講対象である。修了条件を満たした場合には、修了証を発行している。2020年度も多くの大学院生および研究生が国内外から受講した。

▼特別クラスの開講

- ・2020年度秋学期に日越大学 MBA プログラムの学生のために特別クラスの開講をした。また、開講中の日本語クラスでも学生の受け入れをした。
- ・2020年度秋学期にインフラストラクチャー管理学（IMP）の学生のために特別クラスの開講をした。

3. 各種留学プログラムの運営

▼短期留学国際プログラム（JOYプログラム）

協定校からの交換留学生在が日本語科目や英語による専門科目授業を履修するプログラムで、2020年度は春学期のみ開催された。2020年度秋学期は新型コロナウイルスの感染拡大の影響からプログラムは中止となったが、プログラムに参加する予定だった学生に日本語授業

(オンライン) の受講を認めた。

▼横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム

韓国の世宗大学校と本学教育人間科学部の部局間協定に基づいた授業料徴収型短期留学プログラム「横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム（通称世宗プログラム）」の実施は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から 2020 年 4 月～2021 年 2 月実施予定であった第 8 期目の実施を見送ることとした。

▼横浜国立大学日本語・日本文化プログラム

2016 年 10 月より新しく授業料徴収型短期留学プログラムである横浜国立大学日本語・日本文化プログラムを立ち上げた。本学部局と相手大学の学部等が部局間協定を結ぶものであり、2019 年度からは協定部局がこれまでの国際戦略推進機構から都市科学部へと移行した。修学期間は 1 年または 6 ヶ月とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目および英語による YCCS 科目）、および都市科学部が提供する講義科目を年間 20 単位（6 ヶ月の場合は 10 単位）履修する。その単位は派遣大学で互換単位として認定される。2020 年 4 月 1 日の段階では前年度 10 月に来日した台湾の淡江大学の 10 名、および文藻外語大学の 5 名の派遣学生が在籍したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、4 月末までに全員帰国。うち 14 名に関しては台湾から遠隔授業を受けることで、無事プログラムを修了した。10 月期の受け入れに関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から受け入れを中止した。

▼日本語・日本文化研修留学生（国費）の受け入れ

2014 年度より、日本語日本文化研修生（国費）の受け入れを開始した。1 期生 4 名（ブルガリア 1 インドネシア 1 タイ 2）、2 期生 3 名（韓国、フランス、ベルギー）、3 期生 3 名（ハンガリー、ミャンマー、韓国（大学推薦））、4 期生 6 名（ロシア、ブルガリア、モンゴル、シンガポール、ペルー、スロベニア（大学推薦））、5 期生 5 名（ブラジル、モンゴル、カザフスタン、エストニア、イギリス（大学推薦））、6 期生 2 名（中国、韓国（大学推薦））、7 期生（ウクライナ、インドネシア、フランス（以上 3 名は 11 月に渡日）、中国（母国からの参加、渡日せず））を受け入れた。当研修留学生は、日本語レベルや専門に応じ、日本学プロジェクト（必修）のほか、日本語科目や全学科目等を履修している（各学期合計 12 単位以上）。修了

論文のテーマはウェブサイトに掲載している。

http://www.isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、予備教育生（大学院進学予定の国費研究留学生）および教員研修留学生を対象とした 15 週のコースであり、レベル等によって、7～9 コマの日本語科目の受講を義務付けている。2020 年度大学院予備教育生は、春学期 1 名、秋学期 2 名を受け入れ、教員研修留学生は受け入れがなかった。

▼YCCS プログラム

YCCS プログラム生（5 期生 12 名、6 期生 10 名、7 期生 10 名、8 期生 8 名）は、日本語 24 単位が卒業要件となっている。各自のレベルに応じて、日本語授業を受講した。

▼科目等履修生制度の実施

神奈川県下の大学に在籍する留学生を対象に、日本語科目を履修できる制度として、科目等履修生として受け入れる制度を作り 2020 年 3 月、9 月に募集を行った。

▼ヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラム

留学生就職促進プログラムは「大学が地域の自治体や産業界と連携し、外国人留学生の日本国内での就職率を引き上げることを目的とした事業」であり、日本全国に 12 拠点があ
る。本学は「横浜国立大学（YNU）では、横浜市立大学（YCU）、文部科学省、神奈川県、横浜市等とのパートナーシップで」本プログラムを運営している。

*本プログラムウェブサイト <http://www.careerjapan.ynu.ac.jp/>

2020 年 9 月 15 日、19 日、2021 年 2 月 20 日、27 日それぞれ NPO 法人楽しい日本語の会ビジネス日本語コースとの連携授業を行った（担当：横浜市立大学 鈴木綾乃准教授、本学日本語教育部 中川）。

4. 国内・海外出張

2020 年度は実施なし

5. 新型コロナウイルス感染症防止対策

国際企画係、国際教育係との連携のもと、以下の予防対策を行った。

- ①国際教育センターの入り口 2 か所に非接触型の体温計および消毒用アルコールを設置。
- ②センター内の教室の定員を通常の半分とし、それに合わせて席数を削減。
- ③各教室において、教卓および座席の前に、アクリル板を設置。
- ④センター2 階ロビーの席数を削減、各座席にアクリル板を設置。
- ⑤各トイレにペーパータオルを常備。
- ⑥ホワイトボード用マーカーおよびイレイザーを授業担当教員それぞれに準備。

6. その他

- ①オンライン授業実施に向けて授業支援システム、Zoom ミーティング、OneDrive などオンライン授業関連ツールのマニュアルを作成し、非常勤講師のための説明会を行った。
- ②専任教員が非常勤講師数人を担当し、オンライン授業関連サポートを行った。
- ③2020 年 9 月 17 日に日本語教育部研修会・連絡会を実施し、オンライン授業関連情報交換を行った。
- ④「本学の研究力を活用した COVID-19 に係る問題対応のための研究提案・情報発信・社会貢献活動等の支援事業」の助成を受け、「留学生の日本語論文執筆に関するリモート教育支援活動」を実施した。